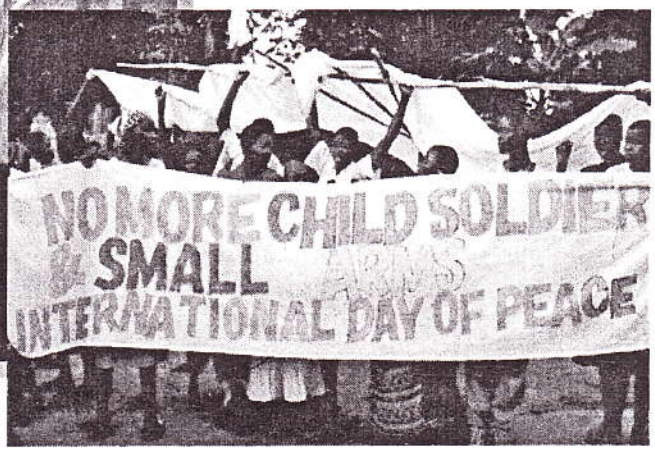
けっしょうも
結晶母
発行:テラ・ルネッサンス　発行日:2005年10月25

Terra Renaissance

Topics

進む国際協力事業～ウガンダ・カンボジアからの報告～

写真上:「除隊兵士生活再建プロジェクト」の受益者と交流するスタディツアー参加者のみなさん



写真下:「小型武器:子ども兵はもういらない!」と書いた横断幕を持って平和パレードに出かけるチャイルドマザーたち

■結晶母目次

P01　代表挨拶
P02　カンボジア事業報告（江角泰）
P04　カンボジアスタディツアー報告
P05　ウガンダ事業報告（小川真吾）
P07　ウガンダスタディツアー報告
P08　愛・地球博報告
P09　事業報告（7月～10月）
（夏季募金／書き損じはがき回収／インクジェットカートリッジ回収）
P10　パートナー団体紹介
（松緑神道大和山/㈱イマン/プレマ㈱/ビルテック㈱）
P11　インターン紹介
（水口奈季沙、尾崎麻衣）
P12　今後の予定／イベント紹介

『僕は13歳 職業、兵士』10月末に発刊

お待たせしました。書籍「ぼくは13歳　職業、兵士。」が合同出版株式会社より、10月末の発売が決定しました。子ども兵と小型武器問題について、わかりやすく書き下ろしたものです。7月18日のニュース23での報道に続き、より多くの方に関心をいただくチャンスだと感じておりますので、お知り合いなどにお勧めください。

ウガンダ北部では、元子ども兵士の社会復帰を更に勧めるため、職業訓練や基礎教育を行う施設の建設に着手しました。12月には完成予定です。皆さまの支援が確実にウガンダ北部で、形になり始めています。

この施設から、元子ども兵士が普通の子どもに戻るためのチャレンジが始まることでしょう。

理事長：鬼丸昌也

5月1日よりカンボジア・バッタンバン州にて「除隊兵士生活再建プロジェクト」のモニタリングを行っていたインターンの江角君（立命館大学国際関係研究科前期博士課程2年）が、8月上旬に帰国しました。現地ならではの様々なハプニングを乗り越え、カンボジア人と見間違われるほど現地に溶け込んだ彼から、カンボジアの現状を報告してもらいます。

【インターン業務】
1. バッタンバン州バヴェル地域　除隊兵士家族支援プロジェクトのモニタリング
2. 2006年実施予定のバッタンバン州カムリエン地域、除隊兵士家族支援プロジェクト調査
3. カンボジアや近隣諸国で活動するNGO／関連団体／政府機関との関係強化、情報交換
4. 日々の事務所での現地スタッフの事務作業補佐

1. バッタンバン州バヴェル地域　除隊兵士家族支援プロジェクトのモニタリング

現在テラ・ルネッサンスでは15家族に対して生活再建支援を行っており、ほとんどの家族が豚、鶏、などの家畜飼育や野菜栽培、雑貨屋の経営、自転車修理などの簡単なビジネスを始めています。

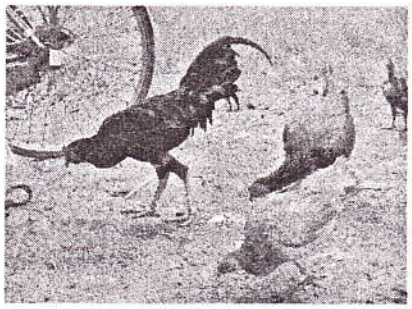
毎週月曜日にバヴェル地域の支援家族を現地スタッフとともに訪問し、健康状態やビジネスの状況をリポートしました。今年のバヴェル地域は干ばつのため雨がほとんど降らず、農業をやるための水や飲料水の確保など、生活していく上でかなり厳しい状況になっていました。例年なら5月から10月の終わりまでが雨季ですが、この時期に雨が降らなければ作物は育たず、収穫が難しくなります。しかし、水不足や家畜の病気など様々な困難にも負けず、懸命に生きようとする姿には胸を打たれるものがありました。ここではそのうちの一家族の生活を紹介します。

Hen Neng氏（37歳）の家族

4人家族。奥さんと6歳・4歳の子ども2人。Neng氏は、1998年にクメール・ルージュとの戦闘中に地雷を踏んで片足を失う。

《2005年5月16日調査結果》　本来は豆の栽培をしていたが、去年の水不足で豆はすべて枯れてしまった。7月にまた豆を植える予定であるという。5月に鶏の飼育を始め、鶏小屋が完成して本格的になった。8～10羽の鶏の状態も非常に良く元気に成長している。

《2005年6月27日調査結果》　鶏は病気の被害に遭い、3羽の鶏が死に、合計約9000リエル（1ドル≒約4000リエル）の損失に。残りの鶏は病気に感染する事もなく、現在も元気である。2羽の雌鳥は卵を孵化させていて、来月産まれる予定である。



《2005年7月26日調査結果》　先月泥棒に大人の鶏を盗まれてから犬を飼いはじめ、それからは盗まれなくなった。2羽の鶏が先週死んだ他は、全ての鶏は元気に育っている。現在の鶏の数は40羽以上であり、何羽かの鶏が卵を孵らせたために、どんどん増えている。稲作や作物栽培の方は、水不足のために問題が生じ、枯れかかっている。7,8月の支援は、鶏飼育を拡大するために使い、どんどん規模を大きくしたいと夢を話してくれた。

2．２００６年カムリエン地域での除隊兵士生活再建プロジェクト　パイロットリサーチ

来年2006年に実施する予定のプロジェクトのために7月18日、19日の2日間に渡ってバッタンバン州カムリエン地域へ現地スタッフと調査へ行きました。この地域では、元クメール・ルージュの兵士たちが多く生活しており、彼らが政府の動員解除プログラムの外で除隊したために、政府からの補償や社会復帰の支援を受けられないで生活しています。この調査はプロジェクトの支援対象者をセレクトすることが一番の目的です。それぞれの村の村長に家族の家を案内してもらい、家族にインタビューをして、現在の生活状況や障害の有無などを確認し、それらをデータとしてまとめて報告書を作成しました。下記のユオン・ティー氏のように、幼いときに兵士にさせられ、戦闘中に地雷を踏んで脚をなくし、現在も貧困に苦しむ・・・まさに紛争に人生を翻弄され続けている人々が多くいることを感じざるをえませんでした。

ユオン・ティー氏（34歳）　　バッタンバン州カムリエン地域、ドーン村

家族：奥さんと3人の娘・3人の息子

彼は1996年に地雷を踏んで片脚を失った。1997年に病気が重く、また脚も負傷したために、除隊した。彼は1980年、当時9歳のときに、クメール・ルージュに徴兵され、兄のボディガードとして銃を持ち戦った。そして戦闘のないときには、部隊で竹やりを作らされた。彼は畑や田んぼを持っておらず、家が建っている土地も隣人のものある。家族の最大の問題は、劣悪な生活環境で、家は小さく、土地、農地がないことである。彼の現在の仕事はカセットプレイヤーの修理であり、収入は安定しておらず、月200または300バーツ（40バーツ≒1ドル）である。健康状態はかなり悪く、熱があり、常にエネルギーがない。以前はICRC国際赤十字に提供された義足を使っていたが、壊れてしまった為に、現在は脚に適合する事ができず、松葉杖を使っている。テラ･ルネッサンスからの支援は自転車修理をする道具をそろえるために使う予定である。彼は父親に教えてもらった自転車修理の技術を持っており、道具を買って、自転車修理のお店を開きたいと考えている。将来は、そのお店をどんどん拡大していきたいと将来の計画を語ってくれた。

■インターンを終えて

江角　泰　君

3ヶ月間は、見るもの感じるものすべてが自分の勉強となりました。プロジェクトのモニタリングやパイロット調査では、実際のプロジェクトがどのように進められ、どのように調査を行い、報告書をまとめるのかといった一連の作業を学べましたし、その他のオフィスでの補佐的な仕事では、翻訳作業やこれまでのプロジェクトのまとめ等をすることで、プロジェクトに関しての知識を得る事ができました。また、自分の修士論文の調査も平行して実施することができ、現地でしか得られない資料や情報を得られたことは論文を書く上でも大変有意義でした。

また、ホストファミリーや現地スタッフのクン・チャイさんらと一緒に生活する中で、心からのおもてなしをする彼らに感動したことも特筆すべき点です。とても貴重な機会をもらうことができて、そして恵まれた環境で研修ができて本当に幸せでした。海外インターンは終了しましたが、この経験を今後のテラ・ルネッサンスの活動に活かすことが自分の使命と考えています。

最後にお世話になったクン･チャイ氏を始めとした現地スタッフの方々や、テラ･ルネッサンス理事長の鬼丸氏、この機会を与えてくださった岡田理事、また現地での滞在先のホストファミリーの方々に感謝したいと思います。

2005年5月より開始した『元子ども兵士社会復帰プログラム』も半年を過ぎようとしています。その間、多くの方のご支援により、15名の元子ども兵士への職業訓練、所得向上プログラム、戸別訪問によるカウンセリングなどを実施してきました。また、8月より現地スタッフとして25歳の女性を雇用しています。度重なるつらい経験にめげず、ひたすらに希望を抱いて生きてきた彼女の想いは、今後のプロジェクトにも大きく貢献してくれると期待しています。

■自立へ向けて動き出す子どもたち(元子ども兵士社会復帰プログラム)

15家族へのクーポンチケットの食費、医療費支援は思ったよりも順調です。この4ヶ月での支援で、どの家族もそれなりに衣食住と医療に関しては安定し、収入向上プログラムに専念することができるようになってきました。

収入向上プログラムは、これまで2回のワークショップ(8･9月)と、毎月の個別訪問を通して、何人かは既にビジネスを始める準備ができています。15人のうち、6人は刺繍、裁縫を通した収入向上を希望しており、内4名は既にグスコ(現地NGO)での刺繍訓練を終えているので、計算能力やビジネスの基本的なことを学び、ビジネスを始めるための資金の貯蓄さえ調えば、収入向上プログラムに取り組んでいける状況です。

アコト・ヴィッキーのミシン購入代金は㈱イマン様が提供してくださいました。

1、アコト・ヴィッキー

ミシンを供与して収入向上プログラムに着手しました。ちなみに、彼女の収入の最終目標は1万シリング(約600円)/日です。現在の彼女の収入は、かなり不定期で、日当3000シリング(180円)の日雇い労働を、週数回しているくらいです。かなり、本人もやる気になって、会うたびにビジネスのやり方、数の計算の仕方、お客の捕まえ方など、積極的に聞きに来る子です。『まずは、一日5000シリング/日を目指して頑張る。』と、言っています。

2、アオル・ジャネット

9月から彼女は、夫のジェームスと共に古着を材料にして、簡単な裁縫工場を始めることになりました。彼女とジェームス(夫、盲目)にはマイクロクレジットとして初期資金約100ドルを融資しました。

その他のチャイルドマザーたちは、炭の小売や、農作物(現地の主食など)の小売、雑貨の小売などを計画しています。今後の予定として、月ごとの医療・食料の支援は続けながら、それぞれの小規模ビジネスの準備ができた時点で、初期の投資資金はマイクロクレジット(小規模融資)で貸し出していく予定です。

■ NO MORE CHILD SOLDIERS & SMALL ARMS (もう子ども兵と小型武器はいらない!)

9月21日は、国連総会で定められた『国際平和の日』です。ジェーン・グドール博士(類人猿研究家)が国連平和大使に就任したのを機に、世界各地で、平和の象徴である”白い鳩”を使ったピースパレードが行われています。

ジェーン・グドール・インスティテュート(JGI)と、

日本の子どもたちとウガンダの元子ども兵士の交流事業で提携している関係から、ウガンダ北部で、元子ども兵士やエイズ孤児を中心としたピースパレードを実施しました。
最終的には300人の子どもたちが、パレードに参加。約50人近くの元子ども兵士と、50人のエイズ孤児たちが、No, More small Arms, No, More Child Soldiers と、自分たちのメッセージをもって、グル市内をパレードしました。

私たちが支援をしている元子ども兵士たちも、パレードに使う鳩やプラカード作りに積極的に参加をしてくれたり、UANSA（ウガンダ小型武器行動ネットワーク：テラ・ルネッサンスの現地提携先の一つ）のリチャード氏による小型武器ワークショップでも、自らの体験を下に質問や意見を述べていました。

■テラ・ルネッサンス初の現地スタッフを雇用（トシャ・マギーさん）

みなさん、始めまして、トシャ・マギーといいます。「トシャ」という名前には「満たされている」という意味があります。父親が名づけたものです。私の母は私が9ヶ月の赤ん坊の時に殺されました。その時に父が「母親がいなくても十分家族の愛に支えられ強く生きていけるように」という思いで私に名づけてくれたものです。

しかし、私の生まれ故郷ブルンジでは、ツチ族とフツ族の間で激しい紛争があり、互いが殺し合い、私が7歳の時にその紛争で最愛の父親も殺されてしまいました。家族全員を失いその後、私は一人難民となってコンゴ、タンザニア、ケニアの難民キャンプを移り住みウガンダにやってきました。その間に体験したことは本当につらいことばかりで、とても一言ではお伝えすることはできませんが、つらい経験というのは何か意味があり、それを意味あるものにするかどうかは自分自身だと言い聞かせてきました。その後、難民キャンプから出てからはインド人の経営する会社で働いたり、学校に行けなかった分、必死で英語を覚え、コンピューターの勉強をして、これまで生きてきました。そんな中でウガンダ駐在事務所の小川さんと出会い、テラ・ルネッサンスのスタッフとして働かせていただくことになりました。

ウガンダ北部では私と同じように紛争で家族を亡くした人たちが今もトラウマや貧困に苦しんで生活していますが、私自身、自分にできることとして、彼ら、彼女らと同じ境遇を経験した者として紛争に苦しんでいる人たちに「たとえどんな苦しみや悲しみがあっても、それですべて人生が終わるわけではない。すべての人はこの世に何か目的があって生まれてきたんだ。」ということを伝えることができればと思っています。

ウガンダ北部の人たちにはこの世界でできることがたくさんある、そう思っています。テラ・ルネッサンスのスタッフとして、元子ども兵士の若者たちには、自分自身の存在と役割に気づき強く生きていけるよう、私自身にできる限りの事をしていきたいと思っています。辛いことや悲しいことは、自分が成長しより良い方向へ向かう為に起こっているものだと私は信じています。なので、ウガンダ北部の人々が経済的にも、身体的にも、精神的にもきっと自立し生きていける、そう信じています。

最後に、テラ・ルネッサンスのスタッフの一員として働けることに誇りに思い、このような機会を与えていただけたことに心より感謝しています。また、支援金を送ってくださる支援者の方々には特別に感謝の言葉を送らせていただきたいと思います。なぜなら、その支援のおかげでウガンダ北部の子どもたちが、朝、笑顔で目覚めることができ、薬や食べ物を得ることができ、そして、再び希望を持って生きていくことができるからです。今後ともテラ・ルネッサンスの一員として皆さんと共に活動していけることを楽しみにしています。

カンボジア スタディツアー2005/夏 報告 Terra-R-kessyomo

テラ・ルネッサンスでは毎年3月にスタディツアーを行っていますが、今年は特別に「雨季のカンボジア」でツアーを行いました。今回の参加者は、それぞれ企業の重職を担う方々。“自分に何ができるのかこのツアーでぜひ見つけたい”と明確な目的意識の下、ご参加くださいました。

■カンボジア・トラスト 義肢装具士養成学校 奨学生ソックンさんとの対面

ソックンさん（前列中央）と参加者

8月25日（木）、首都プノンペンにあるNGOカンボジア・トラストの義肢装具士養成学校を訪問し、テラ・ルネッサンスの奨学生ウム・ソックンさんと交流しました。当初のシャイな感じはなくなり、自信を持って自分のことを話してくれる姿に彼女の大きな成長を感じました。参加者はソックンさとの対談の後、学校を一通り見学。近隣国の留学生が集まった国際色豊かなクラスで楽しそうに義肢を作る生徒の姿を見て、自然と笑みがこぼれていました。午前中に「キリングフィールド」や「トゥールスレン収容所」など、ポルポト政権時代の虐殺の現場を見ていただけに、笑顔で勉強に励む彼女らに希望を感じたようです。

■MAG（Mines Advisory Group）地雷撤去現場を視察

8月26日（金）、カンボジアで活動する地雷撤去機関、MAGのバッタンバン・オフィスを訪問後、バッタンバン州カムリエン地域ルヴィアテ村の地雷撤去現場を視察しました。2004年12月30日から撤去を始めて以来、周りを農地で囲まれているこの地雷原から見つかった地雷は1024個。この日の午前中だけで見つかった地雷も3個あり、3つの地雷を同時に爆破処理する様子を見学させてもらいました。静寂の後にけたたましい爆発音と吹き上がる砂煙、そして伝わってくる爆風に、自然と涙がこぼれた参加者もいました。

トン・マトさん家族の現状を聞く参加者。この直後井戸の建設を即決！

■バッタンバン州バヴェル地域 除隊兵士家族を訪問

8月27日（土）、2005年よりテラ・ルネッサンスとNGOインターバンドがバッタンバン州バヴェル地域で、共同で実施している除隊兵士家族の支援プロジェクトを視察。除隊兵士の3家族を訪問し、プロジェクトの進行状況を確認すると共に、支援家族との交流をしました。

今年のバヴェル地域は干ばつのためプロジェクト自体もやりにくくなっています。トン・マト氏の家族は、奥さんが両目を失明しているために、マト氏が外へ働きに出ることができません。そこで家でもできる豚や鶏などの家畜飼育や野菜の栽培によって生活しているのですが、それらに必要な水をすべて雨に頼っているため、井戸の建設をお願いされていました。この現状を見て、参加者の株式会社シーエフエスの藤岡さんらは、この家族の周囲の村人も使える井戸を建設することを約束してくださいました。

参加された皆さんは帰国後、職場などで報告会を開き、さっそくカンボジアへの支援を呼びかけてくださいました。また、トン・マト氏への井戸建設費もすでに集まり、現在建設に向けて最終の調査を行っています。藤岡さんらは来年3月、再びこの家族を訪れる予定でいます。

8月18日～25日の行程で、ウガンダを訪問するスタディツアーを実施。今回のツアーには、高校1年生から60代の方まで幅広い年齢層の方が参加くださいました。

ウガンダ北部より、アチャンとチャールズの二人が、生まれて初めて長距離バスに乗り、カンパラまでやってきました。ツアー参加者は、元子ども兵士の二人と一緒に、食事や観光の時間を過ごす中で、日本では想像することさえ難しかった「子ども兵」問題を、友人の問題として考えるようになっていきます。今後もテラ・ルネッサンスが事業展開している国へのスタディツアーを実施し、多くの方に、様々な問題を肌身で体験していただければと願っています。

■ツアー参加者の感想文（一部）

「スタディーツアー」の名の通り、本当に学ぶことが多く、自分を振り返る時間にもなりました。ナイル川の源流まで足をのばしたり、ンガンバ島でチンパーンジーの孤児？と出会ったり、最後にはラクダに乗って砂漠散歩・・・とてもリッチな旅でもありました。

「子ども兵」の現状だけに焦点が定められてしまっていたら、きっと自分を見つめ直し、彼らと同じ目線で物事を、生きるということを、見ることはできなかったと思うのです。現地に行って初めて頭ではなく、ハートで彼らと「共に生きたい」と感じました。別の言い方をすれば、日本で報告を受けていた時はある意味人ゴトだった「子ども兵」のことが、アフリカから帰ってきた今、自分ゴトになっています。テラ・ルネッサンス主催“アフリカスタディーツアー“は自分を知り、自分を広げる旅であり、一人一人が自分自身を生きることが平和なのだと感じられる時間でもありました。また、ぜひ参加させていただきたいと思います。【仲本　佳子さん】

カンパラでは、元子供兵のアチャン・リリーさんとチャールズ君と話す機会があった。事前に話しには聞いていたが、実際に本人たちと会うと、現実に起こっていることなのだと改めて実感するとともに、彼らになんと声をかければいいのか戸惑いを隠せなかった。

チャールズにこまを教える圭君

チャールズ君と日本から参加している柴田圭君は、ビデオレター交換などの交流を行ってきた。彼らと別れるとき、チャールズ君が圭君に「木の葉が木から落ちると戻らないように、君も日本に帰ったら２度とここには戻らないんだね」と言ったのがとても印象的だった。国籍は違っても、お互いを大切に思う気持ちは変わらないのだと胸が熱くなる。ちなみに圭君が「I will be back!」と約束していたのも忘れない。

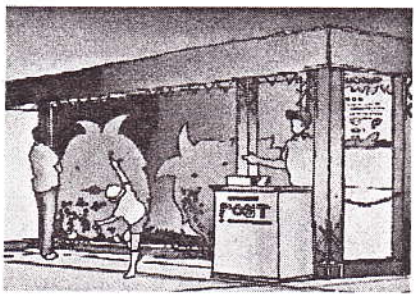
テラ・ルネッサンスの現地スタッフ、トシャさんの話もしておきたい。彼女はブルンジの虐殺で目の前で多くの人々が殺されるのを目撃し、自分の親兄弟をも失うなど、我々では想像もつかない苦しみを受けながらも自分の人生を切り開いている。彼女に自分の道を見つける人と見失う人の違いは何かと聞いてみた。彼女は、「自分が人生のヒーローであることに気づくかどうか」の違いだと教えてくれた。「ヒーロー」とは「英雄」ではなく「主役」ということだろう。彼女は、だれもが自分の人生の主役であり、自分の生きる道を決めることができるのだと教えてくれた。私も主役らしく、周りに流されるのではなく、自分で決めた人生を歩んでいこう。まずは、今回のツアーで感じた体験のすばらしさや悲惨さを友人や会社の同僚に話して、少しでもこの問題に関心を持ってもらおう。小さいかもしれないが、それが今回のツアーに参加して自分がやるべきことだと思った。まずはそこから始めよう。【薄井健さん】

「自然の叡智」をテーマに2000万人を超える来場者を記録し、9月25日に閉幕した「愛・地球博」。テラ・ルネッサンスは半年間の会期中、様々な形でこの「愛・地球博」に関わってきました。特に市民プロジェクトへの関わりが深く、瀬戸会場の「対話劇場」では理事長の鬼丸が3回も講演させていただくなど、多くの人にテラ・ルネッサンスの活動をお知らせすることが出来ました。

■「アフリカの叡智」プロジェクトでノーベル平和賞受賞者ワンガリマータイと対談！

愛・地球博は、万博史上初めて、市民が主役となる『市民参加プロジェクト』が設けられました。鬼丸は、その中の『アフリカの叡智プロジェクト』リーダーとして関わることになります。これはアフリカが本来持っている可能性を、アフリカと日本の若者たちが探っていくという趣旨のもと、日本国内8つの小中学校を、大学生たちがアフリカの民話や文化を伝える『アフリカ民話朗読団』の巡業などを行いました。プロジェクトイベントに、「MOTTAINAI」で有名なワンガリ・マータイ氏が会場を訪れ、鬼丸、セッツァ・ドラミニ氏（マンデラ大統領の孫）と対談することになりました。マータイさんは会場にいる若者たちに向けて、「もっと軽やかに人生を楽しんでください」と語り、若者の可能性について力強く語ってくださいました。

■クロージングイベント「メッセージカード」が280枚（16万1275円）託されました！



9/20～25日の5日間、「愛・地球博」の会場内全5箇所で、未来へのそれぞれの思いを記すメッセージカードプロジェクトが行われました。この事業は、来場者の皆様の「地球を愛する未来への思い」をメッセージカードに記していただき、その参加費用を、既に一足早く地球の未来に向けた活動を進めている国際機関・団体に寄付させていただくものです。

団体の募集枠は15団体と非常に狭き門だったのですが、期間を通しての取り組みが協会に認められたのか見事「寄付先団体」に選ばれ、「日本赤十字」などの国際機関と肩を並べながらも、280名強の方がテラ・ルネッサンスの活動に未来を託してくださいました。今回寄せられた16万1275円は、会の様々な活動に使わせていただきます。

12月はイルカさんが選んだ
メキシコの子どもの絵

■ストリートチルドレン芸術祭チャリティカレンダー発売中！

市民参加プロジェクトの一つである「ストリートチルドレン芸術祭」が世界各国に3万人～1億人いるといわれているストリートチルドレンから百数十点の絵を集め、半年の会期を通して「芸術祭」を行いました。そ中から各界の著名人12名が選んだ絵を元に、2006年チャリティカレンダーを作成、テラ・ルネッサンスがその販売を委託されいています。

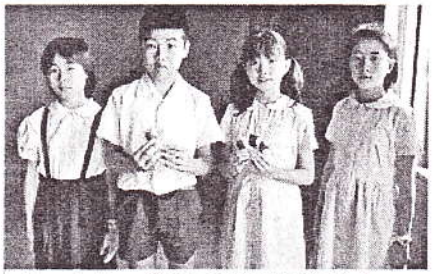
カレンダーの収益はすべてストリートチルドレンの支援に使われ、テラ・ルネッサンスにも一部が寄付される予定でいます。

【お問合せ・お申込先】ストリートチルドレン芸術祭事務局
e-mail:scaf05@yahoo.co.jp　fax:03-3654-7891（電話受付なし）
ホームページ　http://i-debut.org/ivalue/0001044/

■夏季募金キャンペーン総額61万7985円集まる！

7/1～8/31 まで行っておりました夏季募金キャンペーン。『あなたの夏の思い出を少しおすそわけして下さい』 をキャッチフレーズに、たくさんの方々にご協力していただきました。中でもテラ･ルネッサンス会員の皆様からのご寄付が８割ちかくを占め、会員の皆様の事業に対する関心の高さを改めて感じました。また、運営費に充てられる「自由寄付」もあわせてしてくださる方がたくさんおられ、事務局スタッフもずいぶん勇気付けられました。

寄せられた募金はすべてウガンダでの「元・子ども兵社会復帰プロジェクト」に充てさせていただきました。ご協力本当にありがとうございました。



カートリッジの回収を呼びかける、ノートルダム学院小学校児童会執行委員のみなさん

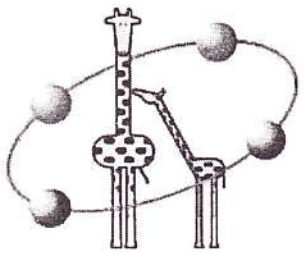
■使用済みインクジェットカートリッジ回収、大反響！

前号の「結晶母」でお知らせした「使用済みインクジェットカートリッジ回収」に対して、反響が続々と事務局にきています。今まで惜しげもなく捨てていた「インクジェットカートリッジ」がなんと１個30円になることや、「リサイクルの促進になり環境にもやさしい」ということで、企業ではCSR（企業の社会的責任）の一環として、また団体では簡単にできる国際協力として、皆様に受け入れられたようです。

すでに３つの企業、２つの団体/学校が回収を始めています。この反響を受け、テラ・ルネッサンスではポスターや回収箱貼付シールなどの「回収キット」を作成いたしました。
もちろん個人ベースでの回収も承っております。みなさまもこの回収事業にぜひご協力ください。
（お問い合わせは事業担当：森本まで）

■書き損じはがきキャンペーン　1000枚の書き損じはがきが、567枚の80円切手に！

今年から、書き損じはがきの回収をテラ・ルネッサンスでも始めています。６月末までに１千枚を超える書き損じはがきが寄せられました。学校の全校生徒に呼びかけてくれた大津市立瀬田中学校生徒会のみなさんをはじめ、周りのお知り合いに声をかけてくださった方、中には大変貴重な切手を送ってきてくださった方などもいらっしゃいました。



野口建設さんの「きりん」マーク。京都の街ではよく見かけることができます。

お寄せいただいた書き損じはがきは、一枚５円の手数料をひいて、新しいはがきや切手に交換されます。通常はこの切手を金券ショップなどに買い取ってもらうことで換金をするのですが、それではさらに手数料がひかれてしまいます。そこで、テラ・ルネ会員である「野口建設」さんに切手を買い取っていただけないかとお願いしたところ、快く、567枚すべての80円切手を買い取ってくださると、即決でお返事をいただきました。「野口建設」の代表取締役である野口政男さんから切手の購入に際し、『これからも鬼丸君の歩んでおられる道を信じ、今後の活動と成果を心から期待しています！！』とメッセージをいただきました。テラ・ルネッサンスは皆様の期待にお答えできるよう、さらに精進していきたいと思っています。

（野口グループホームページ　http://www.kirin-g.jp/）

本会では企業・団体様とのパートナーシップの構築に力を注いでおります。社会を構成する大切な要素である企業・団体、そして個人やNPOが、パートナーシップを結ぶことが、社会変革を促す上で、強く求められているからです。以下に、テラ・ルネッサンスのパートナー企業・団体様（一部）をご紹介いたします。

■宗教法人松緑神道大和山（青森県東津軽郡/教主：田澤清喜様）

http://www.yamatoyama.jp

松緑神道大和山様より、ウガンダ北部での『Smile House（元子ども兵士社会復帰促進センター）』の建設資金と運営費を拠出いただいております。（Smile Houseについては、次号で詳細をご報告いたします。）

松緑神道大和山様は、１９７４年、初代教主 田澤康三郎師が、ベルギーのルーベンで開催された「世界宗教者平和会議第２回会議」に参加され、世界平和実現に向けた具体的な実践活動の必要性を提唱。帰国後、世界の平和を祈り「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」できる平和運動として教団で始められたのが「一食を捧げ一欲を節する運動」（略称：平和一食運動）でした。この運動を広く社会に啓蒙・普及・拡大することを目的に、翌１９７５年にその実践運動のひとつとして「チャリティーバザー」を開催されています。その大切な献金の一部をご支援くださいました。今後、支援と同時に、婦人会や青少年と元子ども兵たちとの交流も計画しています。

■株式会社イマン（東京都板橋区/代表取締役：田中芳美様）

imane

http://www.imane.co.jp/

株式会社イマン様は、『世界中の女性、女の子に連帯する』というモットーの下、フォスタープランなどを通じて売り上げの一部を、乳幼児衛生管理指導など、地域に密着した支援活動を行っています。本会が加盟しているマーケティングの勉強会で、㈱イマンの代表取締役の田中芳美様とご縁を頂き、ウガンダの元子ども兵士の現状の関心を持ってくださいました。㈱イマン様からのご支援は、特に元少女兵の社会復帰に充てられ、すでに元少女兵にリースするミシンの購入代金として活用しております。

■プレマ株式会社（京都府京都市/代表取締役：中川信男様）http://www.binchoutan.com/

健康関連商品などをインターネット通販されているプレマ株式会社様。今までにも、販売セールの一定割合を災害支援に充てられたり、国境なき医師団などNGO/NPOを支援されてきました。

このたび、カンボジアでの地雷除去や除隊兵士の生活再建事業などに、ご支援を頂くことになりました。また、プレマ㈱様との協働事業も始まることになりました。寄付をする、されるという関係から、社会貢献のために、互いの得意分野で協力し合うことは、社会貢献のあり方に新しいモデルを提示するものになると考えております。（協働事業の詳細は次号でご紹介する予定です。）

■ビルテック株式会社（千葉県千葉市/代表取締役：大吉弘様）http://www.biltec.jp/

アルミ手摺専門メーカーのビルテック株式会社様は、元子ども兵士の社会復帰プログラムにご支援くださっています。代表取締役の大吉弘様は、本会顧問の小田全宏様にご紹介いただきました。お忙しい中、私どものプログラムの説明に耳を傾けてくださり、『地域の子どもたちの国際交流、教育もかねて支援したい』と仰って頂きました。

テラ・ルネッサンスではここ最近インターンの活躍が際だっています。ボランティアとは異なり業務の担当などを任せる分、責任を持った仕事を求められますが、それぞれの得意分野や個性を活かしてテラ・ルネを盛り上げてくれています。今回は、中期（１ヶ月～２ヶ月）、長期（半年以上）でかかわってくれている二人のインターンをご紹介します。

■水口奈季沙さん（京都産業大学文学部国際文化学科２回生）

夏休みの間テラ・ルネッサンスでインターンをしました、水口奈季沙です。「大学コンソーシアム京都」のインターンシッププログラムを利用して、テラ・ルネッサンスにお世話になりました。インターンをやろうと思ったきっかけは、今年の２月にカンボジアへ行って地雷のことを知り、戦争について考えさせられ、学んだり感じたりしたことを人に伝えたい、そして私に出来ることをやりたいと思ったことです。

夏休みの間の一ヵ月半という短い期間でしたが、いろいろな人と出会い、貴重な経験をさせていただきました。そしてたくさんのことを得ることが出来ました。テラ・ルネッサンスが取り組んでいる「小型武器」「子ども兵」「地雷」、そして事業を行っている「ウガンダ」や「カンボジア」についての知識が増えたことは私にとってとてもいい収穫でした。さらに、今後の大学生活でどうありたいか、自分自身の中で今までとは違った考え方が出来るようになったことが今インターンを終えてとても嬉しく思います。

また、インターン研修や業務を通じてテラ・ルネッサンスがたくさんの人に支えられていることを知り、「みんなでテラ・ルネを造っているんだ」と常に感じながら仕事をすることが出来ました。インターンは終わったけれど、これからもテラ・ルネッサンスに関わっていきたいと思っています。

■尾崎麻衣さん（立命館大学国際関係学科卒業）

今年の８月から来年の２月まで約半年間インターンをすることになりました、尾崎麻衣です。大学に入ってから、地雷問題に出会ったことがきっかけで、国際協力に興味を持ち、大学で開発や途上国に関する授業をとったり、自分で勉強したりしてきました。貧困や地雷など、世界の様々な問題について勉強するうちに、それらを無視することはできないという思いがふくらみ、やがて自分には何ができるのか、何をしたいのかを考えるようになりました。ただ大学で学ぶだけではなく、実際に国際協力の分野で働きたいとの思いが、自分の中に出てきたのです。

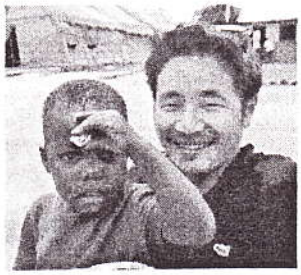
そして、国際協力ＮＧＯ、特に興味のあった地雷問題に取り組んでいるＮＧＯでインターンかボランティアをしたいなぁと思っていたところ、あるイベントで知り合った鬼丸さんの知り合いの方からテラ・ルネッサンスを紹介してもらい、インターンをすることに！ちょうど、地雷問題や平和構築に関わる団体を探していた私にとって、すごくいいタイミングで、まさにぴったりな団体に出会うことができたのです。

テラ・ルネッサンスでは、興味のある資金調達や広報について、鬼丸さんやスタッフの方とともに関わり、活動していきたいと思っています。来年４月には就職が決まっているので、それまでの活動となりますが、一生懸命頑張りますので、皆さんよろしくお願いします。

■10月～12月の予定　★は一般参加可のイベントです

☆10月25日（火）講演：枚方市立枚方第2中学校（大阪）
☆10月27日（木）講演：大津市立瀬田中学校（滋賀）
☆11月10日（木）講演：京都青年会議所11月例会（京都）
☆11月12日（土）参加：京都市立高雄中学校街頭募金（京都）
★11月14日（月）～11月20日（日）写真パネル展示会
　京都市立伏見青少年活動センター/ロビー（京都）
★11月19日（土）主催：小川真吾帰国報告会（京都）
　ひとまち交流館京都3階第3会議室（19時～21時）
★11月20日（日）主催：スタディツアー説明会（京都）
　「バーチャルスタディツアー体験 in カンボジア」
　京都市立伏見青少年活動センター/会議室（14時～16時）
★11月26日（土）主催：出版記念パーティー（東京）
　アリエルダイナー（14時30～17時まで）

テラ・ルネッサンス主催イベントへのお問い合わせは、
テラ・ルネッサンス事務局（担当/鬼丸・森本）までお願いします。



11/14～11/30 まで、ウガンダ駐在員の小川真吾が一時帰国します！また、『僕は13歳、職業、兵士』の出版に合わせて出版記念パーティーや報告会をしますので、ぜひ皆さん会場に足をお運びください。

一緒にテラ･ルネッサンスを造っていきませんか（会員募集）

テラ･ルネッサンスは世界平和の実現を目指す市民団体です。多くの市民が参加することで、世界を変える力が大きく生み出されます。テラ･ルネッサンスの趣旨に賛同される方は、ぜひメンバー登録をお願い致します。皆様の想像力と行動が、確実に世界を変えていきます。

【会員特典】
・活動報告、平和問題リポート掲載の会報誌（季刊）の贈呈
・テラ･ルネッサンス主催のイベントへの優待　など

【会員種別】

正会員	●正会員	30,000円／年
賛助会員	●個人会員	3,000円／年
	●ジュニア会員（18歳まで）	1,000円／年
	●団体会員	50,000円／年
ファンクラブ会員	●理念に賛同し、月単位で継続支援される方	1,000円／月

郵便振替　００９５０－７－１３３７６０　加入者名　テラ･ルネッサンス基金

【編集後記】今回から「結晶母」が大幅にリニューアルしました。いままで定期的に発行できなかった反省を踏まえて、今後は2ヶ月に一度のペースで出せるように頑張ります。会員紹介のページも作れたらいいなあ。　（事務局：森本のり子）

【編集・発行】
特定非営利活動法人　テラ・ルネッサンス
612-0031　京都市伏見区深草池ノ内町5-23-105
tel/fax:075-645-1802　e-mail:contact@terra-r.jp
URL　http://www.terra-r.jp

PRINTED WITH SOY INK　本誌はリサイクルや地球環境に配慮した大豆油インクを使用しています